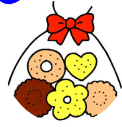


ふじみさらダボール子育て情報



「思考する大切さ」
平成30年5月9日号
板橋富士見幼稚園



成長は新しい経験の出会い

乳幼児は、発達と共に、徐々に自分がわかるようになってきます。専門的には、自己性の発達といいます。この自己性によって、周囲の人やモノを好奇心をもって見たり、語り掛けたり、手にとって不思議さを味わったり、動かしたりします。しかし、その都度戸惑いがあり、時にはためらう時もあります。

毎日、同じモノや場で遊び続けているのですが、大人と異なり、その都度リセットされ、初めからのやり直しなのです。そして、少なくとも同じ遊びや生活習慣を4、5回繰り返し、やっと戸惑いから脱し、ひとりで出来るようになっていたり、遊び込めるようになっていたりします。



こうして、毎回戸惑いを繰り返しながら成長し続けていくのです。

そして大人は、子どもが一所懸命遊び楽しんでいる姿を見て幸せ感に浸り、安心します。でも、ある日突然、今まで出来ていたことや、遊びをいやがったり、拒否したり、泣き出したりする姿と直面することに、驚かされます。

一瞬、「何故」とビックリした経験は誰にでもあります。

幼児期の子どもの発達はとてもデリケートで、経験は、その都度、知識として蓄えられていきますが、心の蓄えは何度も繰り返し経験しないと蓄えられないのです。

つい、無理矢理、「今まで出来ていたのだから出来るでしょ」と促したり、軽い気持ちでやらせたりすると拒否したり、泣き出したりします。

では、どのようにしたらよいのでしょうか。

いつも心がけて欲しい一言は、「ねえ、やって見る?」と気持ちを委ねる言葉です。「やだ」「できない」と言う時もあり、この言葉を聞くと、我がままになってしまうのではと心配される方もいます。でも、毎日沢山経験する中の1つ2つを拒否したところで、我がままになるとか、出来なくなってしまうことはありません。

大切なお子様を伸び伸びと知的に育てていくためには、「聞かれたら教える」「拒否されたら、理由を尊重する」ということを大切に、褒めて一緒に支えていくことが、賢い子どもを育てるコツです。